

## 第3回 地方議会・議員のあり方に関する研究会（議事概要）

## 【議事概要】

- 初出席の構成員から自己紹介を行った。
- 全国都道府県議会議長会から発表を行い、その後自由に意見交換を行った。
- 只野座長及び河村構成員から、「地方議会活性化シンポジウム2019」の模様を紹介し、その後議員のなり手不足の要因について意見交換を行った。

## 【主な議論】

- 人口減少や議員のなり手不足は全国的に生じうる現象であり、将来想像される姿からこれだけは実現すべきという対策を考えるべきではないか。【吉田構成員】

## （選挙公営）

- 吉田構成員からの発表で、後継者不足により議員を引退できないという声が紹介されたが、面積が大きな町村もあるので、認められる選挙運動のうち選挙公営の対象となるものが少ないと選挙に出ることが難しいのではないか。合併して面積が広がった町村もあることを踏まえて、制度を考えるべきではないか。【河村構成員】
- 合併を経て面積が広がった町村も多くあるが、そのフォローが選挙に関してなされていない。こうしたことを踏まえて選挙公営を拡大していく必要がある。【松尾構成員】

## （選挙制度）

- 都道府県議会議員の選挙では定数が異なる選挙区がある。人口比例で選挙区を区切ってしまうと都市選出の議員が増えるため、他の地域への目配りはどうなるかという心配がある。それから、合併で市の区域が広がっているのに選挙区を分割できないことをどう考えるか。選挙区を設定しないで全県一区とすることも考えられるのではないか。【岩崎構成員】
- 各議員は地域に根ざした政治的背景を背負って選出されることが重要ではないか。選挙区をなくすことは難しい。【吉田構成員】
- 地方議員の選挙制度は戦前から変わっておらず、そのまま維持することに無理があるのではないか。議会では諸々の改革を行っているが、住民に気づかれていない。選挙制度の改正であれば、住民にとって変化を実感しやすいのではないか。聖域とせずに議論すべきではないか。【大山座長代理】

(無投票と議員のなり手不足の関係)

- 人間には自分が選択したものを正しかったと思うという傾向(確証バイアス)があるといわれるが、無投票となって選挙を通じたコミットがなければ、住民は地方政治に関心を持たず、なり手不足の要因となるのではないか。なり手不足の背景には、無投票と無関心の負のフィードバックがあるのではないか。【大屋構成員】
- 競争性を回復する手段として、定数を増加させることが考えられるのではないか。【大屋構成員】
- 定数を削減するという議論があるが、定数を削減した結果、得票のハードルが上がるために議員のなり手不足につながるという面があるのではないか。【河村構成員】

(多様な人材の確保)

- リスクがあっても得られるものが大きければ、住民は議員になることを目指すのではないか。落選のリスクがあり、その後に頼ることができる収入が少ないので、年金の改革は必要ではないか。【大屋構成員】
- 企業は、採用を抑制していた就職氷河期世代の人材確保に動いている。政治に求められる人材は多様であるが、この世代の人材を確保するという観点で企業に勝てる待遇となっているのか。【大屋構成員】
- いずれは議員になってもらいたいと思うような人材に実際に議員になってもらうためには、年金や報酬を見直さないといけないのではないか。【吉田構成員】

(議会・議員のあり方)

- 住民に議会・議員の役割を知ってもらうため、その役割を法律で明確化する必要がある。【吉田構成員】
- どのような議会を目指してほしいのかについて、住民のコンセンサスをつくる必要があるのではないか。プロフェッショナルを求めるのかどうかという観点が必要ではないか。【河村構成員】
- 住民にとって、地方議員は、地元の名望家が地域貢献として務める名誉職であるようなイメージが定着しているのではないか。そのことが、属性の偏りや報酬引き下げを求める議論につながっているのではないか。【河村構成員】

(議会と住民との距離)

- 制度改正などの「外からの改革」を実現するには、議会自身が「内なる改革」によって住民からの信頼を得なければならない。【河村構成員】

- 前回、議会からの情報発信について質問があったが、出雲市においては、平成30年からHPをリニューアルし、議会HPを市HPから独立させ、モバイル対応したことにより、HPの年間アクセス数が従来のおおよそ4～5倍に急増した。また、定例会後の速報版議会だよりの配布、ケーブルTVやyoutubeによる議会中継の配信、議員主体の議会広報番組の作成を行っている。【川上構成員】
- 先進団体では、住民に議会活動について意見を聞くという議会モニターの取組が行われているが、市議会・町村議会ではどの程度取り組まれているのか。【岩崎構成員】
- 全国の状況はいま答えられないが、出雲市議会では導入するよう努力している。【川上構成員】
- 町村議会においては、長野県が先進地で、モニター制度を取り入れている町村がいくつかある。今後、他でも導入を進めていこうという段階である。【松尾構成員】
- 従来の情報発信のように住民が一方向的に情報を受け取るのではなく、モニター制度のように住民が自らの問題として政策課題に向き合う機会を設けることとすれば、住民が主体的に議会との関わりを持ち、議員のなり手不足の解消につながるのではないかと。【岩崎構成員】
- 議員のなり手不足と議会に対する不信感とが悪循環になっているのではないかと。【大山座長代理】
- 議員が揶揄されるような事態にどのように対応するかが問われている。例えば、住民にとって議員が別格のものという印象を与える議員バッチを廃止することも検討してみることも考えられないか。【大山座長代理】

(議員の研修)

- 議員はそれぞれの見識に従って行動するものであるという考え方からすると、政府に対して研修の機会を求めるのではなく、例えば議長会が自ら研修機会を設ければよいのではないかと。【大屋構成員】

(多様な人材の参画の必要性)

- 地方議会に、なぜ多様ななり手が参画する必要があるのかについて合意がないのではないかと。【原田構成員】
- 国の意思決定に反映されない多様な意見や地域特性を、地域の意思決定に反映させるためには、多様な住民が地方議会に参画する必要があるのではないかと。【原田構成員】